

令和2年度  
授業改善推進プラン

令和2年11月  
大田区立羽田中学校

## 目 次

令和2年度 大田区立羽田中学校 授業改善推進プラン全体計画	1
各教科の授業改善推進プラン	
国語科	2, 3
社会科	4, 5, 6
数学科	7, 8, 9
理科	10, 11
英語科	12, 13
音楽科	14, 15
美術科	16, 17
保健体育科	18, 19
技術・家庭科	20, 21

**【関係法令等】**  
 ○日本国憲法 ○教育基本法  
 ○学校教育法 ○学習指導要領  
 ○東京都教育委員会教育目標  
 ○大田区教育委員会教育目標

**【学校の教育目標】**  
 人間尊重の精神を基調として、広い視野を持って未来を生き抜く、心身共にたくましい生徒を育てるために、次の目標を掲げ、全教職員で教育実践に取り組む。  
 ○「豊かな心」 ○「学ぶ力」 ○「健やかな体」

**【願い】**  
 ○学校、地域の実態  
 ○地域の期待や願い  
 ○保護者の期待や願い  
 ○期待される生徒像

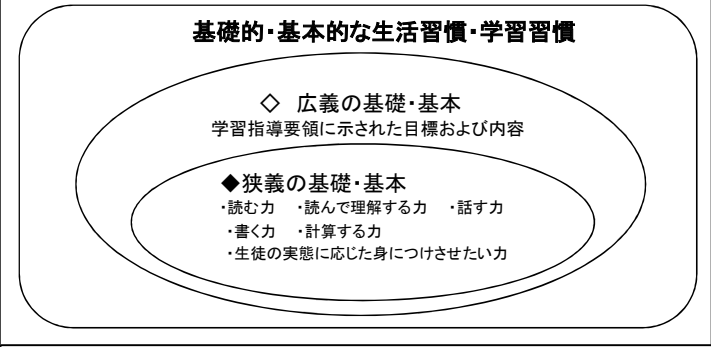
**学校経営方針 笑顔と信頼のあふれる学校を目指して**  
 『豊かな心と主体性を育む教育』を推進する。  
 『学力向上・体力向上のための取り組み』を推進する。  
 『地域と共に子どもを育てる教育』を推進する。  
 『規律ある学校生活』を送らせる。  
 『信頼される学校』であり続ける。

**各教科の指導の重点**  
 ○「区学習効果測定」、「都学習状況調査」「保護者・生徒による授業評価」等の結果分析、基礎・基本の定着と思考力を高めるための「授業改善推進プラン」の作成による授業改善への取り組みの充実  
 ○生徒の学習状況の把握と個に応じた指導の充実のために「学習カルテ」の作成と個別面談の実施  
 ○各生徒に配布したタブレット教材などのICTの活用  
 ○土曜補習(年6回)、放課後学習教室

**【本校における確かな学力の捉え方】**  
 本校では生徒の人間としての調和のとれた成長を目指し、次に掲げる力を育成する。  
 ①基本的な生活習慣と学習習慣  
 ・規則正しい生活をしていこうとする意欲 ・家庭学習を継続する力  
 ②授業規律と学習環境を整える力(姿勢・態度・服装・授業前の準備)  
 ・学習用具を揃える力 ・話を聞く力 ・ノートをとる力  
 ③基礎・基本的な学力  
 ・読む力 ・読んで理解する力 ・話す力 ・書く力 ・計算する力  
 ④知識及び技能を活用する力  
 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・発表力  
 ⑤主体的・創造的に学び続ける意欲や態度  
 ⑥情報の収集力・活用能力  
 ⑦自ら課題を設定し探究する力、課題解決能力、コミュニケーション能力  
 ⑧マナーや規範意識  
 ⑨個性・適性を生かし社会に貢献していく力、自己実現を図ろうとする力

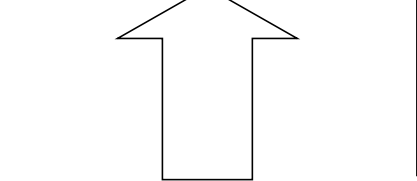
**道徳教育の指導の重点**  
 ○「深く考え、議論する」道徳へ向けた指導法の研修を推進し、意図的・計画的な道徳授業の実施を図る。  
 ○小中連携「規範意識向上プログラム」を計画的に実践し、何が正しいかを判断し、自ら責任をもって行動できる能力(自己指導力)を養う。  
 ○道徳授業地区公開講座を充実させ、家庭や地域社会と連携した心の教育を推進する。  
 ○他者の命を大切にす気持ちを養い、命の尊さを知る教育に取り組む。(3月生命尊重週間)

**総合的な学習の指導の重点**  
 ○生徒自らが課題を設定し探求する学習の3年間を見通した計画的な実施  
 ○環境問題や地域の課題、職業や自らの将来などへの課題意識をもたせる指導と、課題解決能力やコミュニケーション能力の育成  
 ○図書室やタブレットの有効活用、地域の図書館や関係諸機関との連携など、様々な学習環境の積極的な活用



**特別活動の指導の重点**  
 ○「時と場と立場をわきまえた行動」の確立と主体的な活動を通じた自己伸張  
 ○生徒会活動・学級活動の充実による自主的・自治的な態度の育成(ノーチャイムデイの実施)  
 ○部活動への積極的な取組による豊かな感性の涵養と体力の向上、生徒相互・生徒と教師の信頼関係の深化  
 ○特別支援学級との交流活動の充実

**進路指導・キャリア教育の指導の重点**  
 ○「人としてのあり方、生き方」を考えさせる指導  
 ○3年間を見通した進路指導計画に基づく系統的・計画的な指導の継続  
 ○就労者の講演会やマナー講習等を通して、社会に貢献する態度の育成と自己実現を図ろうとする力の涵養



**生活指導の重点**  
 ○規範意識の向上と望ましい生活習慣の確立  
 ○学校生活調査とHyper-QUの実施、スクールカウンセラーと連携した教育相談の充実  
 ○セーフティ教室(SNS、薬物乱用防止)の実施  
 ○地域や家庭、関係諸機関との連携による健全育成、安全指導の徹底

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導内容・指導方法の工夫	研究・研修への取り組み	評価の工夫	小学校および家庭や地域社会との連携の工夫
新学習指導要領の趣旨を踏まえて ○基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力、及び人間性の育成 ○学校評価の改善・工夫とそれを生かした授業評価の実施 ○「朝読書」「新聞教育」を活用した読解力・表現力の育成 ○道徳の授業の充実 ○サポートルームを活用した、指導の充実	○数学(全学年)で少人数習熟度別授業を実施 ○英語(全学年)でティームティーチングによる指導を実施 ○総合的な学習の時間における職場体験・上級学校訪問などの体験的な活動の充実 ○個に応じた指導の充実のため「学習カルテ」の作成とカルテに基づく個別の面談の実施 ○オンデマンド授業やタブレット学習による学習機会の充実	○生徒の学習意欲を引き出す指導方法の工夫と学力向上のための取り組みの充実 ○職層に応じた研修や校外の研修への積極的な参加と研修成果の還元 ○特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育に対する支援体制の確立とケース会議の充実 ○ICT推進校における研究の充実	○より精度の高い評価基準を目指した適切な評価計画に基づく評価の実施 ○指導と評価の一体化(生徒の学習意欲を喚起し、生徒・保護者への評価に対する説明責任を十分に果たす) ○各教科の学習状況の保護者への周知と家庭における学習習慣の定着を目指した取り組みの推進	○連携小学校との共通指導目標「学習指導・指導スタンダード」の活用 ○小学校児童を対象とした中学校見学・部活動体験入部の実施 ○ボランティア活動への積極的な参加の促進と地域との連携の充実 ○「アシスト羽中(学校地域支援本部)」との連携

## 令和2年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・各学年とも国語科全体の達成率が、目標値に3ポイント以内に迫る数値となっている。基礎学力の定着に重点をおいた指導が奏功していると考えられる。
- ・短期的な目標としての意欲喚起と基礎学力の定着を期して、単元テスト・小テスト等を定期的に行うことが出来た。

#### (2) 課題

- ・すべての基本となる考える力、それを支える語彙力に課題がある。日常の言語活動を意識的に捉える習慣をつけながら、語彙の獲得、理解や思考の深まりにつなげる指導を行う。
- ・授業での学習同様に、基礎学力の定着には家庭学習が重要であることを伝えながら、意欲的に課題に取り組めるように指導する。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第1学年	全体としては目標値を2.4ポイント下回った。「言語についての知識・理解・技能」に関する観点については、目標値を上回っているが、ほかの観点については課題が残った。	/	/
第2学年	全体としては目標値を0.2ポイント上回った。「読む能力」や「言語についての知識・理解・技能」に関する問題に課題が残った。	全体としては目標値を3ポイント弱下回った。「言語についての知識・理解・技能」の観点では目標値を上回ったが、そのほかの観点には課題が残った。	/
第3学年	全体としては目標値を少し下回った。「書くこと」に関する観点に課題が残っているため、その点を克服できるよう意識的に取り組ませていく	全体としては目標値を約2ポイント下回った。「関心・意欲」「話す・聞く」の観点では目標値以上の結果だが、作文や漢字、文章の読み取りなどの問題に課題が残った。	全体としては目標値を少し下回った。「話す・聞く能力」に関する問題に課題が残った。

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
目標値を6.8ポイント下回っていた。聞き取り問題でのつまずきのためだと考えられる。	目標値を10.5ポイント下回った。話の内容を正確に聞き取る問題の正答率が低い。	目標値を5.7ポイント下回った。書くことに対する苦手意識があるようである。	目標値を4.6ポイント下回った。説明文に対して、文章の構成や展開を正確にとらえることに課題がある。	目標値を2.3ポイント上回った。漢字の読みなどよくできているが、書き取り問題などに課題が残る。

## ② 第2学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
目標値に達している。これは関心意欲を測る問題の一つである、聞き取り問題での頑張りの影響のためと考えられる。	目標値を4ポイント上回った。どの問題も概ねできている。	目標値を2ポイント上回った。作文問題で自分の立場やその理由を書いたり、まとめたりする問題での正答率の高さ影響したと考えられる。	目標値を約0.5ポイント下回った。お概ねどの問題もできていたが、説明文を文章の展開に即して内容をとらえる点が苦手なようである。	目標値を2.4ポイント弱下回った。文法の文節や単語に関する問題に課題がある。

## ③ 第3学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
目標値を2.4ポイント下回った。聞き取り問題でのつまずきのためと考えられる。	目標値を4ポイント上回った。どの問題も概ねできている。	目標値を5.7ポイント下回った。作文など書くことに対する苦手意識があるようである。	目標の水準には概ね達しているが、説明的文章の展開に即して内容をとらえる点が苦手なようである。	目標の水準には概ね達しているが、漢字の読みには力を入れる必要がある。

## 3 授業改善のポイント（観点別）

### (1) 第1学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
授業に向かう姿勢をさらに向上させる。聞き取り問題でのつまずきを改善していく。	定期的に授業内で聞き取り問題を実施し、聞き方話し方のポイントを体験的に身につけていくようにする。	書くことに対する苦手意識をなくすために、書くポイントを理解しけるようにする。	文章の内容に沿ってまとめられるようにするため、展開や構成に気をつけて読む能力を育成する。	目標値を上回ったが、引き続き小テストの実施などで定着を図っていく。

### (2) 第2学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいるので、さらに意欲が向上するように工夫して授業を進める。	引き続き力を伸ばせるよう、授業内で聞き取り問題を実施したり、発表する場を設けたりするなどする。	伝えたい事実や事柄を明確に伝えるための書く方法や力を育成するため書く前段階での作業に力を入れる。	説明文を文章の展開に即して内容を捉える力の向上のため、構成や展開を読み取る問題を多く取り入れる。	漢字だけでなく、文法の力を伸ばすために小テストなどの実施などで定着を図っていく。

### (3) 第3学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいるので、さらに意欲が向上するように工夫して授業を進める。	引き続き力を伸ばせるよう、聞き取り問題はもちろん、集団討論等を授業に導入するなどして、主体的に話す力を伸ばす。	文字数と段落数を指定して書く課題を取り入れ、条件を踏まえて書く力が身に付くようにする。	説明的文章に慣れ、文章の展開に即して要旨を捉える力をつけるために、段落や全体の要旨をとらえる課題を取り入れる。	授業中に漢字や文法の小テストの実施をし、漢字の定着を図っていく。

## 令和2年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・ワークを用いた学習を行った結果、特に2年生において知識・理解を問う問題で高い正答率を出すことが出来ており、基礎的・基本的な知識の定着を図ることができたといえる。

#### (2) 課題

- ・3年生では雨温図や地形図の読み取りは概ねできているが、その他の資料を用いた問題において正答率が下がる傾向があった。また2年生でも資料を活用した問題で正答率が伸び悩む傾向がみられたため、どの学年でも授業内において資料の読み取りを資料集やワークシート等で徹底して行っていく必要がある。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第1学年	目標値に対して4.8ポイント下がる結果となった。とりわけ関心・意欲・態度と知識・理解の観点において大きく目標値を下回っている。	/	/
第2学年	全体として目標値と比較すると2.3ポイント上回る事ができている。特に関心・意欲・態度と思考力・判断力・表現力の観点において大きく目標値を上回ることが出来ている。	全体では目標値から下回る結果であった。特に知識・理解を問う問題において正答率が低い傾向が見られた。	/
第3学年	全体では目標値から4.4ポイント下回る結果となった。技能の多くの問題で目標値と同等の正答率となっている。「日本の諸地域」、「近世の日本」の問題の多くで目標値を下回る結果となった。	全体では目標値から6ポイント以上下回る結果となった。特に地理的分野の「世界の諸地域」と歴史的分野の「飛鳥～平安時代」の知識・理解の問題全てで目標値を大きく下回る傾向が見られた。	全体では目標値から下回る結果であった。特に知識・理解を問う問題において正答率が低い傾向が見られた。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
歴史的分野の問題については目標値を上回ることがあったが、地理的分野の問題では目標値を下回る結果であった。	歴史・地理の問題で目標値近くの正答率の問題が多い傾向にある。	地理的分野の資料を活用する問題で目標値を大きく下回る傾向を見られた。	歴史的分野の問題において、目標値に大きく届かないという状況が見られる。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ほとんどの問題で目標値を上回ることが出来ているが、区全体の正答率が低い問題では、正答率が低い問題では正答率が伸びていない。	記述・短答の問題を含めて、概ね目標値を超える正答率となっている。	西ヨーロッパの気候に関して資料を読み取る問題の正答率が目標値から大きく下回っている。	目標値を下回る正答率の問題もあるが、聖徳太子についての知識を問う問題などでは昨年に比べ、25ポイント以上上昇している。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
地理的分野では目標値を上回ることがあったが、歴史的分野の問題では目標値を下回ることが多かった。	地形図中の地域の、他地域との結び付きについて考える問題で目標値を大きく下回っている。	概ね目標値に近い正答率となっているが、日本と世界の米の生産を示す資料の問題で目標値を大きく下回っている。	阪神工業地帯の知識を問う問題で、目標値を大きく下回る形となっていた。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
写真や映像資料などを用い、社会的事象への興味・関心を引き出す。	授業内で「なぜこのような状況が生じたのかなどの問いに対して自ら考えさせる活動を行う。	各種統計資料や地図の読み取りを反復して行うとともに、資料と社会的事象の関わりを記述させる。	单元ごとに学習ワークへの取り組みを徹底させるとともに、单元テストを行い、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
新聞や映像資料といった教材を活用し、社会的事象への興味・関心を喚起していく。	授業内で「なぜ、このような状況が生じたのか?」といった問に対して、社会的事象が起こる因果関係を考え、ノートにまとめさせる。	ICT 機器を活用して雨温図や主題図などの資料の読み取りの基礎を徹底的に行うとともに、資料と社会的事象の関わりを記述させる。	単元ごとに学習ワークへの取り組みを徹底させるとともに、適宜小テストを行い、基礎的基本的な学習内容の定着を図る。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
新聞や映像資料などをを用い、現代社会の出来事と学習内容の関連性を理解し、興味・関心を持たせる。	資料等から「なぜこのような状況が生じたのか?」や「問題点は何か?」などの問に対して、自ら考え、ワークシートに記述する活動を行う。	ICT 機器を活用して雨温図や主題図などの資料の読み取りを確実に習得する。また、資料と社会的事象の関連を授業内において記述させる。	基礎的・基本的な学習事項を授業内において反復して問ながら授業に取り組ませる。また学習ワークに単元ごとに取り組みさせる。



## 令和2年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・基礎基本の定着を目標にして授業を行い、演習を繰り返し行っている。四則演算をはじめとする、技能的な能力の向上に繋がったものとする。
- ・単元テストや小テストを小まめに行ったり、それと併せて日頃より課題を出すようにした。それにより、生徒が常に学習する習慣を身に付けるようになった。
- ・数学的活動を授業内でを行い、誘導問題を採り入れるなどの工夫をし、生徒の思考力の向上へと繋がった。

#### (2) 課題

- ・基礎的事項の繰り返し演習を行っているが、生徒により理解度に差が見られる。少人数授業の特性を生かし、一人一人にきめ細かい指導の徹底が必要である。
- ・学習内容の分野が変わると、既習事項が抜けてしまう傾向が見られる。例えば図形領域の学習をする際にも、数と式や数量関係など融合的な演習をすることで、既習内容の理解の定着を図る。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第1学年	全体として、昨年度より3ポイントほど下降した。特に、小数や分数の四則演算の正答率が、昨年度を大きく下回っていた。一方、百分率の問題の正答率は上昇していた。	/	/
第2学年	正答率について、全体は前年度より5.2ポイント上昇した。基礎が上昇し、活用が下降という結果だった。関数や空間図形の分野が課題である。	全体の正答率は、昨年度と比べ横ばいである。グラフや図形の知識に関する問題の正答率は上がったが、負の数の扱いや代表値の知識の定着に課題が見られる。	/
第3学年	全体として、昨年度より正答率は2.5ポイント減少し、目標値に対しての正答率が9ポイント下回っている。特に、図形の分野に課題が見られる。	全体の正答率は、昨年度と比べ横ばいである。グラフや図形の知識に関する問題の正答率は上がったが、負の数の扱いや代表値の知識の定着に課題が見られる。	全体として、目標値に対して正答率が前年度を下回っているが、棒グラフの読み取りなどの数量関係の内容で、達成率が上がった。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
既習内容を用いて、課題解決を図る姿勢が見られる。正当には至らずとも、積極的に発言し熟考し、課題を解決しようとする姿勢が見られる。	立体の体積や図形の面積の求め方は、概ね理解できている。しかし、式やグラフを読み取り考察し、その内容を表現することに課題が見られる。	文字式の読み取りや、グラフの読み取り方の基本事項は理解している。しかし、比や単位量の考え方の理解が定着していない。	全体として、目標値に近い正答率である。しかし、反比例の考え方や平行四辺形の面積の求め方など、特定内容の理解が定着していない。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
既習内容を用いて、課題解決を図る姿勢が見られる。積極的に発言する生徒もいて、学習に対して前向きに取り組んでいる。	問題文を読み、物事を分析し考察することに苦手意識を持つ生徒が多い。特に関数や空間図形に関する内容では顕著である。	計算の基本事項は理解している。目標値を上回るまたは同程度の正答率であった。しかし、不等式や比例のグラフなど正答率が低かった。	全体として、関数や空間図形に関する内容の多くで、正答率が目標値を下回っていた。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
既習事項には意欲的に取り組める。しかしその先の内容のことになると、考えようとせず諦める傾向が見られる。	既習事項を活用することに苦手意識を持つ生徒が多い。数と式については、目標値に近づいているが、図形の証明問題に関する問への理解が不十分である。	基本的な計算問題への正答率は目標値に近い。しかし、正五角形の1つの内角の大きさを求めるなど、知識に加えて技能を問われる問への正答率が低い。	全体として目標値に近い正答率であるが、1次関数のグラフを読み取る問題の正答率が、目標値より大きく下回る。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
定期的に課題を出し、基本事項の理解定着を図る。個々の生徒に間違えた問題を丁寧に指導し理解させ、生徒の学習に対する意欲を育む。	問題解決のため、既習事項がどのように利用できるのかを、発問等で考えさせる。誘導を工夫し、解答を導く考え方を理解させる。	答えだけではなく、その過程を書かせる指導を徹底して行う。基本的な計算や図形の計量などの問題を、日常的に行う。	生徒に発問し答えさせる際、適切な用語を用いて説明させる指導を行う。公式などは、問題の度に確認し、演習をもって理解の定着を図る。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
既習事項の復習を行い、『できる』を感じることから意欲を高めたい。また既習事項と新たな学習の繋がりを理解させ、生徒の意欲を高める。	答えよりも、それを導く過程を説明させることで友達同士の議論を行い、互いに高め合う授業展開を図る。	計算過程を常に振り返り、計算順序を確認していく。計算練習を継続し、更なる定着を図る。	発問の際、自身の考えを適切な言葉を使い説明させる場を多く設ける。これにより、知識の定着を図る。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
既習事項の復習を丁寧に行い、新しく学ぶものとの繋がりを理解させ、生徒の意欲を高めさせたい。	答えよりも、それを導く過程を説明させる。友達同士で議論し、互いに高め合う授業展開を図る。また、繰り返しの演習を行い、数学的な表現の仕方を定着させる。	計算過程を常に振り返り、計算順序を問うことをしていく。家庭学習と指導と評価の一体化を図り、演習量を増やしていく。	考え方を適切な言葉を使い説明させる場を多く設ける。また、定期的に課題を出し、知識を定着させる。

## 令和2年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

長期休暇などを利用して、既習内容を復習する機会を設け知識を定着させたこともあり、習ってから期間の開いた単元でも正答率を下げることがなかった。

#### (2) 課題

3学年は「技能」の観点、2学年は「関心・意欲」の観点到課題が残った。一度過ぎた単元にも戻って繰り返し学習することで知識を定着させたい。また、身近な科学と学習内容を結びつけたり、実物や映像を提示したりすることで関心・意欲を高めたい。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和元年度結果	平成30年度結果	平成29年度結果
第1学年	「関心・意欲・態度」・「思考・表現」の観点が低かった。身近な科学から関心を高めたい。	/	/
第2学年	「エネルギー」領域が最も低い結果となった。実験結果をグラフにまとめ、定量的にまとめる力をつけさせたい。	「自然事象への関心・意欲・態度」が4観点の中で最も低かった。身近な理科から関心を高めたい。	/
第3学年	「粒子」「地球」領域の正答率が低かった。学習後、期間の空いたことが原因かと思われる。	「生命」領域は目標値を超えた。「地球」領域が最も低い結果となった。授業進度の遅れが原因だと考えられる。	「物質・エネルギー」領域が、「生命・地球」領域より達成率が低かった。実験を行うことで知識を定着させたい。

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
全体的に正答率が低かった。「日常に見られるてこ」に関する問題の正答率が特に低かった。	発芽の条件やおもりを持ち上げる方法など思考力の必要な問題の正答率が低かった。	技能に関する問題の正答率は全体的に高かった。特に光合成の実験方法がよくできていた。	物質の単元は比較的 正答率も良かったが、 大地の単元は昨年度より大きく正答率下げた。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
密度に関する問題は目標値より高かった。音波や蒸留を日常と結びつける問題は下回った。	「植物の分類の観点」「水溶液を粒子モデルで表す」など考える問題の正答率が特に低かった。	濃度計算の正答率は前年度より高い。捕集できる気体の性質の正答率が低かった。	大地の単元は目標値と同程度の正答率が見られた。植物のつくりや圧力の正答率が低かった。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
生命やエネルギーに関する問題は正答率が高かったが、粒子や気象に関する問題は低かった。	柔毛や電磁誘導を説明する問題の正答率は高かった。寒冷前線の読み取りなどが低かった。	天気図や電圧計の読み取りは出来ていたが、染色液、湿度計算の正答率は低かった。	生命やエネルギーに関する問題はほぼ目標値を超えている。化学式、露点などは低かった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
手にとって観察してみたり、観察出来ない部分は映像で確かめたりして、関心を高める。	事象を調べる実験方法を考えさせたり、実験から事象を説明したり、考察する場面を増やす。	顕微鏡やガスバーナーなど、再度使用方法を説明し、手を動かして身につけさせる。	大地の単元を特に重視し、問題練習や単元テストなどを行い、知識を定着させる。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
雲の出来方や陰極線など、演示実験を多く取り入れ、実際に見ることで関心を高める。	化学反応式では、化学変化を原子のモデルで考えられるように説明する。	化学実験を積極的に行っていく。また実験方法の理由までしっかりと理解させる。	練習問題や小テスト、単元テストなどを用いて繰り返し学習することで、知識を定着させる。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
知識を身近な物にどのように応用されているのかを知ることによって、関心や興味を高める。	天体の動きを日周運動、年周運動から理論的に説明できるように指導する。	器具の性質を理解させるとともに、実験結果を定量的に考察することで技能の力を伸ばす。	イオン式、電離を表す式などは、小テストなどをくり返して知識を定着させる。

## 令和2年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・興味・関心を高め、教科書の内容理解を促すためにICT機器を効果的に利用した。
- ・ペアワークやグループワーク、ALTとのやりとりを積極的に取り入れ、インプットやアウトプットの機会を多く設けた。
- ・小テスト、単元テストを繰り返すことにより、知識の定着度を確認しながら授業をすすめることができた。

#### (2) 課題

- ・単元で新しく学んだことを一時的に理解はできるが、定着に繋がらない生徒が多い。既習事項に繰り返し触れさせる必要がある。
- ・学習した表現を活用して英作文を行うことへの苦手意識が高い。授業で書く時間を十分に確保し、短い英文を書く練習を繰り返す必要がある。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第1学年	/	/	/
第2学年	「聞くこと」に関しては、概ね目標値に近い達成率である。「読むこと」「書くこと」に関しては、英文の内容の把握、英作文が課題である。	/	/
第3学年	「聞くこと」は、目標値を上回った問題も多く見られる。「読むこと」「書くこと」は単語・語形・語法の理解力、英作文力を高める必要がある。	「聞くこと」「読むこと」に関して、概ね目標値に近い達成率である。「書くこと」に関して、無回答の割合が区平均と比較し高いことが課題である。	/

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
音読を中心とした発話には積極的な生徒が多い。一方で書き取りへの意欲には課題がある。	学んだ表現を、組み合わせ、自分のことに置き換えて表現する力の育成が必要である。	小学校での外国語活動を通して、聞くことに関する基礎的な力は身につけている。	文字と発音のつながりや、文法的な力を徐々に理解させ、英語の文構造になれる必要がある。

② 第2学年

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
英語への関心・意欲・態度を高めることで英語の基礎的な力の育成につなげる必要がある。	「書くこと」への苦手意識が高い生徒が多く、まずは「書くこと」への抵抗感を減らしていくことが課題である。	基礎的な力が備わっている生徒が多い。一方目標値に届かない生徒は語彙力不足が考えられる。	本観点に関しては、二分化してしまっていることが課題である。繰り返しの学習で基礎力を高め、「書くこと」につなげたい。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
「話すこと」や「聞くこと」に関心・意欲が高い。「書くこと」の関心を高め、継続させるために、取り組みを工夫する必要がある。	「書くこと」において既習の単語や熟語、文法知識等を活用し、自分の言葉で表現させるため、語彙力を高める必要がある。	「読むこと」について限られた時間内で情報の読み取りができる力を総合的に育成する必要がある。	1、2年の復習を始め、単語や熟語、文法上のきまりを理解し応用させるため、繰り返しの学習が必要である。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
英語での簡単なやりとりやビンゴ、歌などを通して、英語への関心・意欲を高める。また発話を重視し、ペアワークを取り入れる。	A L Tとのインタビューテストや、自分のことを英作文させる機会を設け、学習事項を活用して表現する力を身につけていく。	イラストやジェスチャーを用いて、日本語の助けを最小限する。また初見の短文などにも触れさせ、読む力の向上につなげる。	学んだ単語や文法事項に繰り返し触れさせ、知識の定着を図る。音とつづりの一致を目的に音読を重視して取り入れる。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
前年度のフォニックスビンゴから復習単語を使つてのビンゴに移行し、教科書の内容理解に対する興味・関心を促す。	ペアワーク等の活動を通して音読の充実を図り、質疑応答がスムーズにできるよう指導する。	毎回リスニング演習を行うことで、本文内容を聴覚で認識させた後、英文を読ませて文法事項も定着させる。	単語や文法の短文小テストを継続的に実施する。また、家庭学習ではノートに繰り返し短文を練習させ、さらに定着を計る。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
「書くこと」への意欲が高められるように、設問を工夫しながら、小テスト等をスモールステップで継続的に実施する。	語彙力を高めるため、単語練習を繰り返し復習させ、熟語や基本文を段階に応じて英語で表現できるように指導する。	「聞くこと」や「読むこと」において、概要理解と同様、情報整理の方法や細部の理解まで、回数や時間を限定しながら取り組む。	既習の文法事項をまず定着させ、さらに演習問題等を繰り返し行い、複数の文法事項の組み合わせに対応する力の育成を図る。

## 令和2年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・歌唱では、ソプラノとアルト又はテノールとバスでペアを作り、二重唱活動を行った。ペアで歌うことで、ハーモニー作りが身近なこととなり、個人がしっかりと音を取り、声量豊かに歌うことと、音やタイミングを工夫することとの大切さに意識が向いたようだ。
- ・ギターでは、ギター1とギター2でペアを作り、二重奏活動を行った。ペアで練習では、お互いの音を聴きタイミングを図り、教え合う活動ができた。

#### (2) 課題

- ・一学期・二学期前半はペアでの活動がメインであったが、二学期後半からはクラス全体の活動につなげていきたい。生徒たちだけで音楽を作り上げていけるよう、リーダーを育てていきたい。
- ・声量が貧弱で声を出すことへの抵抗を感じる。息のトレーニングから始め、声で表現することの喜びを感じられるよう活動していきたい。

### 2 観点別の課題

#### ① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
明るく積極的で、他者と協力して、教え合って活動できる生徒が多い。	失敗を恐れず、表現活動する生徒が多い。緩急をつけることができない。	男声に息の流れがぶれてしまう生徒がいる。音程も不安定になる。丁寧な指導を行ってほしい。	一つのことを理解するまでに時間がかかる。丁寧な指導を心掛けたい。

#### ② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
表現することに慣れていない。実技試験を人前で行ってこなかったこともあるためか、誰かに聴かせる演奏ができない。演奏がこじんまりとしている。	積極的に表現できない。美しい発声の生徒も声量が乏しく、誰かに聴かせる表現をすることができない。	ギターでは、徐々に技術を習得することの喜びを感じ、練習できるようになってきた。歌唱が課題。	一つのことを理解するまでに時間がかかる。丁寧な指導を心掛けたい。これまでの理論の内容を十分に理解していないため、楽典を重点的に学習をしている。

#### ③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
表現することに慣れていない。実技試験を人前で行ってこなかったこともあるためか、誰かに聴かせ	女声は、声質が美しく声量豊かで工夫することができる。男声は、声変りが落ち着き声質豊かだが、	ギターには興味を示し、積極的に左右の指の動きを工夫することができる。歌唱については、息	これまでの理論の内容を十分にりかいしていないため、楽典を重点的に学習をしている。



る演奏ができない。 演奏がごちんまりと している。	声量が乏しく、表現 することへの躊躇い がある。	の使い方からの指導 が必要である。	
---------------------------------	--------------------------------	----------------------	--

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
躊躇うことなく表現 活動できるように、 他者と関わり合うこ とで、音楽の豊かさ を感じさせ、心開いた 明るい活動を行って いく。	表現活動に苦手意識 を持たないよう、生 徒一人ひとりのペー スを尊重し、個人の 成長を評価する活動 を行っていく。	ギターでは、右指の 奏法・左指の奏法を 身に付けることがで きるよう指導する。 歌唱では声量豊かに 歌うために、姿勢や 発声等に気を付けて 歌うよう指導する。	五線・加線・音符の 長さ・休符の長さを 理解することができ よう、細やかなノート チェック等を行い助 言する。

#### (2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
授業内で、積極的に 表現し、他者の演奏 を鑑賞し講評するこ とができるよう、他 者と関わり合うこと で、音楽の豊かさ を感じさせ、心開いた 明るい活動を行って いく。	表現活動に苦手意識 を持たないよう、生 徒一人ひとりのペー スを尊重し、個人の 成長を評価する活動 を行っていく。他者 と関わり、合わせる ことの喜びを感じる 活動を行っていく。	ギターでは、右指の 奏法・左指の奏法を 身に付けることがで きるよう指導する。 歌唱では、声量豊か で正しい音程で歌う ために、姿勢や発声 等に気を付けて歌う よう指導する。	音符や休符を組み合 わせた一部形式のリ ズム曲を作れるよ う、細やかなノート チェック等を行い助 言する。

#### (3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
授業内で、積極的に 表現し、他者の演奏 を鑑賞し講評するこ とができるよう、他 者と関わり合うこと で、音楽の豊かさ を感じさせ、心開いた 明るい活動を行って いく。	何故このような響き になるのかというこ とを考察し、自分が 出したい響きを作る ためにはどうしたら いいのかを判断でき るよう指導する。他 者と関わり、表現の 幅が広がることに喜 びを感じる活動を行 っていく。曲種に応 じた表現ができるよ う指導していく。	奏法・左指の奏法を 身に付けることがで きるよう指導する。 弦を弾く場所によっ て音色が変わること に気付き、曲種に応 じた場所を工夫でき るよう指導する。歌 唱では、声量豊かで 正しい音程で歌うた めに、姿勢や発声等 に気を付けて歌うよ う指導する。	音符や休符を組み合 わせた一部形式のリ ズム曲を作れるよ う、細やかなノート チェック等を行い助 言する。発声の原理 を理解し、実践でき るよう指導する。

## 令和2年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・基礎的な技能の練習により学習したことをいかしながら、課題に取り組む場面が増えている。
- ・毎時間の目標を書くことで、自分の課題に集中し、計画的に取り組む生徒が増えた。
- ・教室内外の掲示物の工夫や、関連図書を置くことで、美術に触れる機会が増えている。

#### (2) 課題

- ・基礎的な技能の練習により、創造的な技能を習得するとともに、イメージトレーニングやアイデアスケッチなどで、「考えを広げ、深め、決める」場面を増やし、自分らしい表現を完成まで探求し続ける創造性を育てる。
- ・生徒に合う教材の研究や、ITC 機器の適切な活用方法の工夫を引き続き行い、発想や構想に興味を持続させ、主体性を高め、達成感を持たせる。
- ・教室環境を整え、掲示物や情報機器の効果的な活用により、表現の幅を広げたり、自分らしい表現を深めたりするきっかけを増やす。

### 2 分析（観点別）

#### ① 第1学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
意欲的に課題に取り組む生徒が多いが、理解力が足りず、個別指導の必要な生徒もいる。	知識や経験の不足から、自由に発想することが苦手と感じたり、早く答えを求めたりする傾向がある	自分の考えを表現するための、基本的な道具の扱いや技能の取得に差がある	芸術作品に触れる機会が少なく、自他の作品の良さを見つけさらに発展させ深める力に差がある。

#### ② 第2学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
課題に集中できる生徒が多いが、最後まで制作意欲が続かず妥協してしまうものも見受けられる。	発想することに苦手意識があり、自由に表現できないものが若干いる。	自分の考えを表現するための、基本的な道具の扱いに少しずつ慣れてきている。	芸術作品の触れる経験が少なく、それらから受けものを言葉で表現し、作品にいかす力が乏しい。

#### ③ 第3学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
主体的に取り組む、自分ならではの感覚に自信を持つものもいるが、全く取り組もうとしないものもいる。	自由に発想することができるが、さらに考えを発展させたり深めたりする力が不足している。	自分の考えを自由に表現するために、正しい道具の使い方や技能の習得がさらに必要である。	国内外の芸術作品の触れる経験が少なく、それらから感じたことを作品にいかす力が乏しい。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
毎時間ごとの目標を明確にし、課題に集中させるようする。自発的に取り組むための資料や ICT 機器の活用を工夫する。	発想の段階でいくつかのアイデアを出すようにさせ、より多くから自分で決定し自信を持って制作するように促す。	基礎基本の技能の習得の上に、新たな知識や技術を身につけ、自分の作品の完成度を高めるように促す。	教室内外の掲示物や ICT 機器の活用した資料提示を工夫し、生活の中で芸術に触れる機会を増やす。

#### (2) 第2学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
毎時間ごとの目標を明確にし、課題に集中させるようする。自己探求しやすい環境作りに配慮する。	自分で考えを深める発想や構想の方法を知り、自分らしい表現をしていくヒントを用意する。	できるだけ個々の技能の習得に対応し、制作にいかせるように助言する。	美術館レポートの作成など、生活の中で芸術に触れる機会を増やし、一人一人の美意識を高める。

#### (3) 第3学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
毎時間ごとの目標を明確にし、自分の課題に集中させる。3年間のまとめとして高い意識をもって取り組むようにする。	既成のイメージを超えるような参考作品を見せるなど、発想について深く考えさせる場面をつくるようにする。	繰り返して基礎的な技能を定着させる。自分らしい表現を工夫する能力を高める。	修学旅行で歴史的文化財に触れたり、外国の文化や現代美術を紹介したりして、豊かな美的感覚が身につくようにする。

## 令和2年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・補強運動として持久走を継続的に取り入れ、持久力を高めることができた。
- ・オリンピック・パラリンピック教育推進校として、さまざまな種目の選手から講話を聴く機会をつくり、生徒の興味関心を高めることができた。
- ・授業の流れを明確にすることにより、三年生は、リーダーを中心に自主的な活動を行うことができた。

#### (2) 課題

- ・総合的な体力の向上。体幹を鍛えたり、多様な動きのトレーニングをさせたりして、身のこなしやバランス力などを養わせる。
- ・挑戦しようとする態度を育てる。前向きな言葉かけで積極的に運動に取り組ませ、自己肯定感を高めさせる。
- ・集中する力や継続する力をつける。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### ① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
《男子》苦手意識が強く、出来ないことへチャレンジする気持ちが薄い。 《女子》 苦手なことにも一生懸命取り組める生徒が多い。	《男子》自己課題を把握して克服しようとする意識が低い。 《女子》 自己の課題をみつけて練習を工夫する力が不足している。	《男子》基礎体力が不足している生徒が多い。 《女子》 基礎体力が不足している生徒が多い。	《男子》授業での知識を定着させることが苦手である。知識が持続しない。 《女子》 授業での知識を定着させることが苦手である。知識が持続しない。

#### ② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
《男子》 苦手意識が強く、出来ないことへチャレンジする気持ちが薄い。 《女子》 何事にも一生懸命できる生徒が増えてきた。	《男子》自己課題を把握して克服しようとする意識が低い。 《女子》 自己の課題をみつけて練習を工夫する力が不足している。	《男子》基礎体力が不足している生徒が多い。 《女子》 基礎体力が不足している生徒が多い。	《男子》授業での知識を定着させることが苦手である。知識が持続しない。 《女子》 授業での知識を定着させることが苦手である。知識が持続しない。

#### ③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
《男子》積極的に取り組むが、集中が続かない。 《女子》 全体指導で指示が聞けない生徒が多いが、意欲的に活動できる生徒が増えてきた。	《男子》課題に合った練習方法を選択することが苦手である。 《女子》 事故の課題をみつけて練習を工夫する力が不足している。	《男子》基礎体力は確立しているが、その力を活用できない。 《女子》 基礎体力が不足している生徒が多い。	《男子》授業での知識を定着させることが苦手な生徒が多い。 《女子》 授業でのポイントを意識して活動できる生徒が増えてきた。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
《男子》個々に合った課題を明確化し、出来ることから取り組ませる。 《女子》場面練習を多く取り入れたり、内容をはっきりと理解させたりして取り組ませる。	《男子》スモールステップとフィードバックを繰り返し行う。 《女子》動作を細かく分けてポイントを伝え指導する。フィードバックさせて取り組ませる。	《男子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつけさせる。 《女子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつけさせる。	《男子》資料を作成し、配布・提示する。繰り返し授業で確認させる。 《女子》資料を作成し、配布・提示する。繰り返し授業で確認させる。

#### (2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
《男子》個々に合った課題を明確化し、出来ることから取り組ませる。 《女子》ホワイトボードを活用し、指示を明確にし、ノートに書かせる。	《男子》スモールステップとフィードバックを繰り返し行う。 《女子》動作を細かく分けてポイントを伝え指導する。フィードバックさせて取り組ませる。	《男子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつけさせる。 《女子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつけさせる。	《男子》資料を作成し、配布・提示する。繰り返し授業で確認させる。 《女子》資料を作成し、配布・提示する。繰り返し授業で確認させる。

#### (3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
《男子》個々に合った課題を明確化し、積極的に取り組ませる。 《女子》グループ活動を増やし、各グループの課題に応じた練習を構成させるなど、自主的に活動できる場を多く与える。	《男子》自己課題を細かく把握させ、練習方法を選択させる。 《女子》動作を細かく分けてポイントを伝え指導する。フィードバックさせて取り組ませる。	《男子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつけさせる。 《女子》基礎練習を繰り返し行う。具体的な場面を伝え、ゲーム中に止めてその場で指導する。	《男子》資料を作成し、配布・提示する。繰り返し授業で確認させる。 《女子》資料を作成し、配布・提示する。繰り返し授業で確認させる。

## 令和2年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業展開を行っている。課題であった「対話的な」学習も、班やペアを組んで学習に取り組ませる工夫を行っている。
- ・教師だけでなく、生徒もICT機器を適切に活用することで、効率的で深い学びを実現しようとしている。
- ・授業で行った基本的な知識が中々定着しないという課題があったが、教材を実生活に結びつけ、重要な部分は繰り返し指導する等の工夫を行い、改善を図っている。

#### (2) 課題

- ・製作実習において、生徒の作業進度に差が生まれ、完成が難しい生徒が出てしまう。班活動をさらに充実させ、「教え合い」の雰囲気をつくっていくことが必要である。また、「わかりやすい」授業の実現のために、教師が優れた見本を示したり、生徒が使いやすい技術室になるよう、工具や機械類の適切な配置を検討していく。
- ・「教材で育成を目指す資質・能力」を身に付けさせるためには、①「教材」②「教授法」③「学習者」を考えなければならない。それぞれの方法や実態を分析し、工夫した授業をしていく。

### 2 観点別の課題

#### ① 第1学年

関心・意欲・態度	創造・工夫	技能	知識・理解
説明と作業の切り替えができています。しかし、作業によっては意欲的に取り組めない生徒がいる。	定期テストでは問題を正確にとらえていない解答が見られました。	映像や画像等を説明で用いているが、時間が長引いてしまい、作業の時間が短くなってしまっている。	期末考査では問題文の理解が十分でなく、正しい解答ができない生徒がいた。

#### ② 第2学年

関心・意欲・態度	創造・工夫	技能	知識・理解
落ちついて授業に取り組んでいる。意欲的な生徒が多い一方、一部集中が続かない生徒もいる。	定期テストでは不正解が目立った。授業で学んだ内容の理解が深まっていないように感じる。	作業の説明はしっかりと聞いている。全体的な取り組みも良い。	定期考査の結果はおおむね良いものの、学習した内容の理解が深まっていない生徒も見られる。

### ③ 第3学年

関心・意欲・態度	創造・工夫	技能	知識・理解
全体を通して、発言や取り組みなどは良かったが、一部の生徒を集中させることができなかった。	定期テストでは不正解が目立った。授業で学んだ内容の理解が深まっていないように感じる。	授業中の説明は落ち着いて聞くことができているが、内容が理解できておらず、作業が進まない。	定期考査では用語の問題、情報モラルの問題の正答率が低く、知識の定着に課題が残った。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

関心・意欲・態度	創造・工夫	技能	知識・理解
作業の重要性をわかりやすく伝え、学ぶ意味を深く理解させる必要がある。	生活に関連のある課題を出題する。生活に対する課題意識を伸ばしたい。	作業時間を確保するため、導入の部分を効率よく進めていく。	定期考査では、分かりやすい文章を心がけ作成したが、授業中にも文章から解く課題を出題する必要がある。

#### (2) 第2学年

関心・意欲・態度	創造・工夫	技能	知識・理解
全ての生徒の意欲を引き出せるような、課題設定、発問などを考え実践していきたい。	重要な部分は繰り返し指導し、生徒が自分で考え、答えを導き出せるようにしていく。	説明をしっかりと聞いていても、できない生徒がいる。失敗例を説明しながら、取り組ませたい。	授業中の言葉を生徒自身で説明をさせることで再言語化し、知識の定着を図る。

#### (3) 第3学年

関心・意欲・態度	創造・工夫	技能	知識・理解
全ての生徒の意欲を引き出せるような、課題設定、発問などを考え実践していきたい。	重要な部分は繰り返し指導し、生徒が自分で考え、答えを導き出せるようにしていく。	全ての生徒が集中して取り組めるように、教材や発問を工夫して実践する。また、教師の話が長くなりすぎないように注意する。	授業中の言葉を生徒自身で説明をさせることで再言語化し、知識の定着を図る。